

平成30年度「学校評価結果」

京都市立桂川中学校

1. 学校教育目標

<学校教育目標>

「人を大切に、物を大切に、時を大切に」
～誇りの持てる学校に、誇りの持てる自分に～

<自己評価>

「凡事徹底」を貫き、「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を身につけ、自分の夢や希望が語れる生徒の育成を目指し取り組み、一定の成果は得られたと感じる。しかし、自己決定力に課題がみられ、その課題を克服するために、授業改善をはじめ、「何を学ぶか」ではなく「どのように学び」「何ができるようになるか」といった生徒の視点にたった指導改善が必要となる。そのために、具体的な目標（教育目標）をもとに全教職員でカリキュラム・マネジメントに取り組んでいきたい。

<学校関係者評価>

- ・教職員が生徒に寄り添い、心の通った指導をしている様子がよく伝わってくる。そのことによって、地域でもあいさつをはじめ、当たり前のことにつききちんと取り組もうとする生徒の姿が見られる。
- ・学習面については課題もあるように思われるが、放課後の学習会など、学習支援ボランティア等、協力できることはしていきたい。道徳やキャリア教育を今以上に充実させるため、ゲストティーチャー等、外部の人材活用も積極的に取り入れてはどうか。

2. 学力向上

<重点目標>

生徒の主体的な学習を促進し、学習意欲を高め、個性や能力の伸長とともに基礎的・基本的な知識・技能を習得し、課題を解決する能力を身につけさせる学習活動を推進する。また、習得した知識や技能を活用し、課題解決のための思考力・判断力・表現力を身につけさせる。そして、そのことを通じて、生きる力の育成と豊かな人間性を育む。

<評価結果に基づく自己評価（最終）>

【学校評価アンケートの結果】

・授業はわかりやすく、工夫されている。（そう思う 1年83% 2年69% 3年67%）

・授業で話し合いの活動が取り入れられ、意見交流や発表する場がある。

（そう思う 1年77% 2年71% 3年69%）

・学習確認プログラムを効果的に活用し、計画的に学習している。

（そう思う 1年66% 2年61% 3年63%）

【分析（成果と課題）】

・主体的・対話的な授業改善を行い、各学年ともに授業改善をすすめることができ、学習意欲の向上につながった。

【分析を踏まえた取組の改善】

・引き続き主体的・対話的に深い学びにつながる授業改善を行う。（図書館の活用）

・特に学習指導委員会を通して、教科会の重要性を再確認し、授業研究への意欲が高め、指導力の向上につなげる。

- ・学習確認プログラムが計画的に家庭学習に位置づけられるようにする。

【重点目標の達成状況、次年度の課題】

- ・授業改善が、生徒の主体的な学習を促進し、学習意欲を高めることにつながった。
- ・習得した知識や技能を活用し、課題解決のための思考力・判断力・表現力を身につけさせる点については引き続き課題が多い。

＜学校関係者評価＞

- ・各学年の学習課題は、改善の方向に進んでいると考える。
- ・卒業後の進路決定に対して、自分の夢や希望を大切にして欲しい。
- ・支援を要する生徒に対して、様々な機関や諸団体とも連携を図りながら、生徒の成長を支援して欲しい。
- ・各学年の学習課題は、改善の方向に進んでいると考える。
- ・3年生の進路決定は、おおむね希望通りになっているようである。

3. 「豊かな心」の育成に向けて

＜重点目標＞

学級指導を基盤とし、集団の一員としての自覚を深め、互いを思いやり、協力し、よりよい生活を築こうとする態度を育成する。さまざまな教育活動を通して、「しなやかな心」「柔らかな感性」等を身につけさせ、社会で通用し、貢献できる豊かな人間力を身につけさせる。

＜評価結果に基づく自己評価（最終）＞

【学校評価アンケートの結果】

- ・いじめは絶対許さないという意識である。

(そう思う・大体そう思う 1年97% 2年93% 3年94%)

- ・「凡事徹底 あたりまえ10か条」を意識して学校生活が送られている。

(そう思う 1年70% 2年76% 3年69%)

- ・温かな学校、学年、学級に近づいている。

(そう思う・大体そう思う 1年96% 2年92% 3年93%)

【分析（成果と課題）】

- ・「凡事徹底」桂川中学校あたりまえ10か条の取り組みを通して、互いに認め合い、励まし合う人間関係について変化が見られるようになった。

- ・アンケート結果から「凡事徹底 あたりまえ10か条」を意識することについて、「大体そう思う」と回答している生徒が、18%～25%いるため、さらに意識をさせなければならない。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・「凡事徹底」桂川中学校あたりまえ10か条の取り組みにより、少しずつ生徒の人間関係も変化している。引き続き、生徒に自己評価させることで自分自身を振り返り、学校生活に向上に努めさせたい。

【重点目標の達成状況、次年度の課題】

- ・学級指導を基盤とし、おおむねクラスの一員として、互いを思いやり、協力して学校生活が送っていた。
- ・引き続き、「凡事徹底」桂川中学校あたりまえ10か条の取り組みを通して、自らが振り返り、活動を通して、地域や社会で貢献できる力を育成したい。

＜学校関係者評価＞

- ・スマホ、ケータイのトラブルが多いと聞くので、学校でモラル指導をすると共に保護者へも危険性を伝える

ことが引き続き必要である。

- ・登校時にあいさつをしてくれる生徒が多くなった。
- ・「かつら川ふれあい祭」に自主的に参加して、小学生の指導を行っている姿を見て頬もしく思った。

4. 健やかな体の育成について

＜重点目標＞

心身の健康に対する自覚を高め、保健指導・体育的活動を通じて自らの心身と体力を高める指導を強化する。
健康教育及び安全教育の充実を図り、安全で健康な学校生活を送ることへの意識を高める。

＜評価結果に基づく自己評価（最終）＞

【安全や健康に関する取組の実施状況について】

- ・整形外科医による学校での運動器機能向上事業
- ・学校保健委員会の開催

【分析（成果と課題）】

- ・「整形外科医による学校での運動器機能向上事業」の取り組みを通して、運動器の障害・外傷予防についても考える機会となっている。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・「整形外科医による学校での運動器機能向上事業」の取り組みについて、教職員・保護者と共に研修を受ける機会を設定し、継続的に取り組みたい。

【重点目標の達成状況、次年度の課題】

- ・継続的な「整形外科医による学校での運動器機能向上事業」の取り組みを通して、生徒の健康への意識を自覚させることへ大いにつながった。
- ・引き続き健康教育及び安全教育を充実させ、安全で健康な学校生活を送ることへの意識を高めさせたい。

＜学校関係者評価＞

- ・部活動において、指導が充実しているので良い成績結果を残すだけではなく、生徒の自信につながる取り組みとなっている。
- ・例年通り、生活習慣については、各種調査においても良い結果が現れ、今後も意識を高く持って欲しい。

5. 学校独自の取組

＜重点目標＞

「小中一貫教育」における9年間の教育

4つのK（桂川中・川岡小・桂東小・川岡東小）で育む、4つのK「聴こう・考えよう・行動しよう・そして感動をつくろう」

～あいさつのできる子、ともだちと自分を大切にする子、ねばりづよく学習に取り組む子～

＜評価結果に基づく自己評価（最終）＞

【小中一貫連携会議の実施状況について】…小中連携主任会の実施

【小中一貫連携事業の実施状況について】…小学6年生による中学校体験活動（授業体験・部活動体験）

【分析（成果と課題）】

- ・12月実施の「小学6年生による中学校体験活動（授業体験・部活動体験）」は、感想文等からもおおむね好評であったと思われる。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・12月実施の「小学6年生による中学校体験活動（授業体験・部活動体験）」は、部活動体験を見学と変更することや実施時期の見直しを検討する。

【重点目標の達成状況、次年度の課題】

- ・小中連携主任会を中心に小中の各分掌・教科についても連携を進め、小中一貫教育構想についても常に点検を行っていきたい。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点から小中一貫教育についても研究をすすめたい。

＜学校関係者評価＞

- ・特に今年度は、「かつら川ふれあい祭」への生徒ボランティアの参加について、非常に評価できる。
- ・引き続き小中が情報を共有して育成して欲しい。